差別解消法について

辻本 伊公子

2018年12年1日に子宮癌検診のために、以前何度か検診を
してもらった女医さんのクリニックに行った。私は車椅子生活を
送り通院の時はヘルパーさんに一緒に来てもらっている。夫は車
で待ってくれていた。私は事前にクリニックに電話で予約は不要と
かどの程度時間がかかるかを、尋ねていた。

当日、受診が終わり先生と向き合いヘルパーさんは、後方にいてく
れた。女医さんは「結果は一週間ぐらいで、結果がでますので旦那
さんかヘルパーさんに電話で聞いてもらってください。」と言われた
時、私が目の前にいることを全く無視されていたように感じた。

私は女医さんに「私の体のことを何故私が聞いてはいけないん
ですか？私は、これまで病院関係のことや役所関係その他にも
自分に関わることは自分が電話で問い合わせてきました。私は自分
のことは自分で直接聞きたいだけなのです。」女医さんは横を向い
て書類を見ながら「負担にならないように言っただけなんです、気
を悪くされたのならごめんなさい。」と言われた。私はこの女医さ
んが本当に障害者の人権を認めていない気持ちで、心でため息を

つきながら帰宅した。土曜日の出来事で、月曜日に大阪府庁の差別解
消法の女性の相談員に相談した。やはり堺市の事例だったので堺
市の差別解消法の相談員に動いて頂くことになった。11日に堺
市の差別解消法の相談員の方が直接クリニックに行き、パンフレ
ットを一緒に見ながら「障害当事者を見ないでヘルパーさんの顔
を見ながら話すことは差別的取り扱いになりますので障害者の方
ときちんと向き合った診療をお願いします」と説明して頂き女医
さんは「はい、わかりました。これから気をつけます。」という報告
を受けた。しかし、数日後、クリニックの女医さんの弁護士から通知
が届き業務とは関係のないことを話し、他の患者さんに迷惑をかけ
た。と書かれ、私が検査結果を電話で聞いたことも業務の妨げに
なるので、クリニックの出入り禁止し電話やメールのやり取りを
厳しく禁止し違反した場合は直ちに刑事上の法的措置を取らせて
いただきます。と書かれていた。私はその文章を読んだ時、検査結果を
自分で聞きたいと医師に伝えることが業務とは関係のないことにな
るかと思いを感しました。その文書を大阪府庁や堺市の差別解消法
の相談員や障大連にファクスで送ったが「弁護士が出てきたら
行政は口出しできない」ということだった。私は今までいろんな

差別事例について行政の相談員とお店や企業の方たちとの
やり取りで、合理的配慮のことや障害者当事者ときちんと
向き合っ^むて頂^あくこと^{いた}ができ、買^かい物^{もの}がしやすくなったり、バスも
乗りやすくなり差別解消法をきっかけに、少しずつ住みやすい街に
変わってきたことに喜びを感じてきたが、今回のことで弁護士とい
う太刀打ちできない存在に私の体調も崩れ、周りの方の助言もあ
りこれ以上の行動は辞めた。行政の差別解消法の相談員にも、こ
の事例はもうここまでで結構です。ただ次にこのような事があった
ときの対応について考えて欲しいとお願いした。